



ABILITY

ABILITY Pro徹底攻略！

その5 MIDIフレーズトラックでMIDIをループ感覚で鳴らす

ABILITYのメディアブラウザからアクセスするフレーズパネルには約3,900種類のオーディオフレーズに加えて、約3,400種類のMIDIフレーズが用意されています。今回は、このMIDIフレーズを活用するために用意されたABILITYならではの「MIDIフレーズトラック」の使い方を中心に、新機能である「プールパネル」について紹介しましょう。打ち込みを手軽に活用したいギタリストや自分の演奏を録り逃したくないキーボーディストは要チェックです。(文：平沢栄司)

MIDIフレーズをトラックに貼る 第2の方法

付属のオーディオフレーズをトラックに貼ってループ再生というのはABILITYを含め、多くのDAWソフトが対応している機能です。しかし、ABILITYにはオーディオフレーズに負けずとも劣らない数とバリエーションを誇る「MIDIフレーズ」が付属し、そのフレーズをフル活用するための「MIDIフレーズトラック」が用意されています(画面1)。

通常、MIDIのフレーズはMIDIトラックへ貼るわけですが、この場合、貼ったフレーズは自分で打ち込んだデータと同じ扱いとなります。これを第1の方法とすると、第2の方法となるのが「MIDIフレーズトラック」です。こちらは貼ったMIDIフレーズをオーディオフレーズのように簡単にループ再生することができ、さらに、フレーズエディタを開くことでループ区間に展開されたデータを自由にエディットすることが可能です。通常のMIDIトラックを使うよりも簡単、かつ効率的にMIDIフレーズを活用できます。

MIDIフレーズトラックでは コード変換が可能

もう一つ、MIDIフレーズがMIDIフレーズトラックを使

うべきポイントがあります。それはコードトラックにコード進行が入力されている場合、ループ区間のフレーズがコードに合わせて変換される点です。前回紹介したように、ABILITYにはコード進行のデータも付属しているため、それらを組み合わせれば感覚的に1曲分のコード進行を作ることができます。そして、MIDIフレーズデータから1~2小節のベースやピアノなどの伴奏パートのフレーズを選び、MIDIフレーズトラックに貼ってループ再生すれば、一気にバックトラックのひな形を完成させることができるわけです。その後、フレーズエディタを開いて、イメージと異なる部分をエディットしていけば良いでしょう(画面2)。

また、フレーズエディタにはコード変換されたMIDIフレーズの調整が簡単という特徴があります。元のMIDIフレーズと設定したコードの音程差が大きい場合、コード進行によってはコード・フォームのつながりがギクシャクする場面が出てきます。MIDIフレーズトラックには選択したコードをワンタッチで転回させる機能があるので、フォームのデコボコを修正して、実際にそのコード進行で最初から弾いたようなスムーズな演奏に仕上げることができます。

フレーズに頼らない 上級ユーザーにもオススメ

このMIDIフレーズトラックの用途は既存のMIDIフレーズを貼るだけではありません。MIDIトラックに自分で打ち込んだフレーズをトラック内に新規作成したMIDIフレーズトラックにドラッグ&ドロップして移動すれば、同じようにループ再生やコード変換のメリットを享受することができます。また、自分が打ち込んだフレーズはユーザーフレーズとしてフレーズパネルに登録して、他の曲で活用することも可能です。既存のMIDIフレーズに頼らずに自分で打ち込みたいという上級ユーザーの方にも、フレーズパネルやMIDIフレーズトラックを打ち込み支援機能の1つとして活用してもらえましょう。

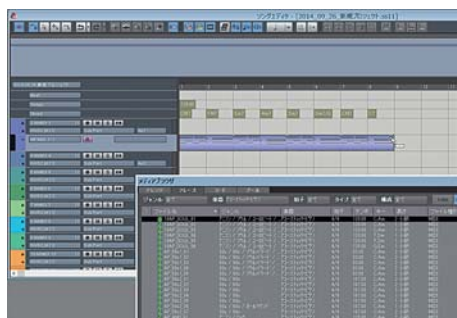
思いついたアイデアを逃さない 新機能「プールパネル」

フレーズを管理するメディアブラウザにはアレンジ、フレーズ、コードのパネルに加えて、ABILITYでは新たにプールパネルが用意されました(画面3)。これはMIDIトラックを使わずにMIDIキーボードで演奏したフレーズを録りためておく機能...と言ってもピンと来ないと思うので、まずはこんなシチュエーションを思い浮かべてください。

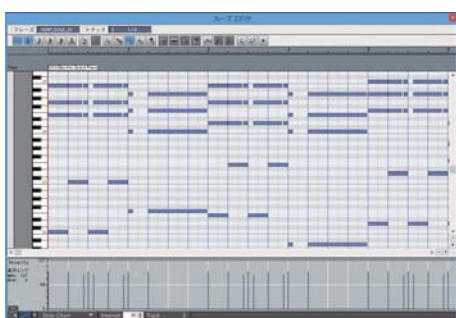
作曲する時、伴奏をループ再生しながらキーボードを弾いてメロを考えるという人は多いと思います。ここで、何か良いフレーズが浮かんだとしましょう。通常は、再生を止めてMIDIトラックをREC可能状態に切り替えて、今、弾いたフレーズをもう一度演奏してレコーディングという形になります。ところが、いざレコーディングしようと思った時に、せっかくのフレーズを忘れてしまった...という経験をしている人もいるはずですよ。

ここでプールパネルを利用すると、伴奏を再生しながら演奏したMIDIキーボードの演奏が自動的にプールパネルの中へと記録されるのです。プールパネルでは1小節の休符が入ったところまでを1つのフレーズと判断して別ファイルに分けて記録し、記録した日付や時間がファイル名となっているので、後からでも目的のフレーズが見つけやすくなっています。あとは、これは！と思ったフレーズをMIDIトラックに貼ればOKというわけです。

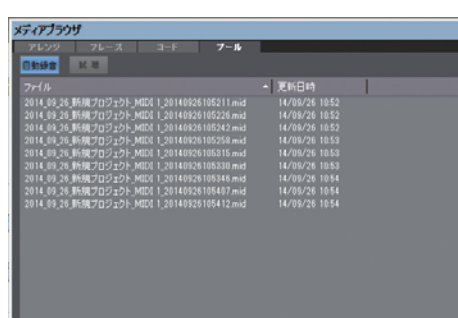
ギタリストがDAWソフトで曲作りを始めようと思った時、伴奏パートの準備が一番の難関だと思います。ABILITYなら、オーディオ/MIDIのフレーズ素材とそれらを使ったバックトラック制作をサポートする機能が充実しているので、ゼロから打ち込むよりも気軽に挑戦することができるでしょう。



画面1 MIDIフレーズをMIDIトラックに貼る際、その直下にMIDIフレーズトラックが作成できる。貼ったMIDIフレーズはマウス操作で簡単にループ再生が可能だ



画面2 MIDIフレーズをダブルクリックして開くフレーズエディタでは、ループ区間に展開されているフレーズも自由にエディットすることができる



画面3 プールパネルの「自動録音」をONにしておく。再生中に弾いたMIDIキーボードの演奏データがプールパネル内に自動的に保存されている